

特別対談

なめがた大使

行方市長

額賀 零 × 高須 敏美



9月4日（金）、本市出身でなめがた大使の小説家・額賀零さんを行方市立図書館にお迎えし、高須市長との特別対談を行いました。額賀さんの作品や新刊『聖地を作れ』の題材となったフィルムコミッションの可能性から、さらには地元である行方市への思いまで、じっくり語り合っていました。



なめがた大使

額賀 零 (ぬかが みお) さん

■ 旧麻生町 出身 ■ 平成 2 年生まれ ■ 小説家

麻生第一中学校、清真学園高等学校、日本大学芸術学部卒業。

大学卒業後、広告代理店に勤務しながら執筆活動を行い、平成 27 年に『ウインドノーツ』（文藝春秋刊）で松本清張賞を、『ヒトリコ』（小学館刊）で小学館文庫小説賞を受賞。

令和 5 年には『転職の魔王様』（PHP 研究所刊）がドラマ化、令和 8 年には『沖晴くんの涙を殺して』（双葉社刊）が映画化される。

現在、大正大学表現学部表現文化学科客員准教授、日本大学芸術学部文芸学科非常勤講師を務める。

令和 6 年 3 月 21 日 なめがた大使委嘱



▲額賀零さん
公式サイト



著書紹介



転職の魔王様

PHP 文芸文庫



令和 5 年のドラマ化の際は
本市でも撮影が行われました！

大学卒業後に入社した大手広告代理店でパワハラに遭い、3 年たらずに退職してしまった末谷千晴。働く自信と希望をすっかりなくしてしまった千晴だが、どうにか「普通の大人」に戻りたいと、叔母が経営する人材紹介会社を活用しながら転職活動をする。彼女はその会社で、「転職の魔王様」という異名を持つ凄腕キャリアアドバイザー・来栖嵐と出会う。

「仕事内容なんて何でもいから、とにかく履歴書の空白期間を埋めたい。それが末谷さんのご希望ですか」面談初日から不躰な態度で接してくる来栖に、千晴は戸惑うが……。



沖晴くんの涙を殺して

双葉社



10 月 2 日 (金) から
実写映画が公開されます！

「喜び」以外の感情をなくした不思議な高校生が、余命一年の音楽教師と出会い、「心」を取り戻していく。大切な涙は、最後に必ずこぼれる——

北の津波に吞まれ沖晴は、死神と取引をしたという。「悲しみ」「怒り」「嫌悪」「怖れ」の感情を差し出し、「喜び」だけを残したまま生還した。だが、家族は死んでしまった。親戚の家をたらい回しにされ、高校生となった沖晴が辿り着いたのは瀬戸内海の階段町。笑うだけの不思議な高校生が会ったのは、余命一年の音楽教師・京香だった。あたりまえの感情がない沖晴、あたりまえに笑うこともできなくなる京香。沖晴は普通の高校生になることができるのか。死にゆく京香は沖晴と出会い、大切なものに気づく。あたりまえの感情は、こんなにも愛おしい……。

行方市立図書館に、特設コーナー設置中！

今回の対談会場である行方市立図書館には、額賀零さんを含む「なめがた大使」の書籍コーナーが設置されています。

上記で紹介した作品はもちろん、その他の著書も読むことができます。

額賀零さんのサインも展示中！ぜひ図書館にお越しください。



■ 住所 行方市玉造乙 1175

■ 開館時間 9:00 ~ 17:00 (月曜日休館)



▲行方市立図書館に所蔵されている額賀零さんの著書

小説家・額賀澤さんの原点と本の出会い

高須市長（以下、高須） 本日はお越しいただき、ありがとうございます。行方市のシティブロモーション委員も務めていただきながら、日頃から市のPRにいろいろとご尽力いただき、本当にありがとうございます。

額賀澤さん（以下、額賀） こちらこそ、いつもありがとうございます。よろしくお願ひします。

高須 これまで多くの作品を執筆され、数々の賞も受賞されています。その豊かな発想力や言葉選びの原点・基礎となった小さい頃のエピソードなどがあれば教えてください。

額賀 私の実家は自営業をやっており、家では大人がみんな働いていました。そのため、小さい頃は一人でビデオを見ていました。ジブリ作品やディズニー映画のビデオテープを、2・3歳の頃から自分でデッキに入れて、巻き戻して再生してずっと見ていました。たくさんのお話に触れた幼少期だったので、今のベースはこの時期に育まれたのだと思います。

高須 小学生の頃は、本はたくさん読みましたか。

額賀 小学2・3年生の頃、小学校の図書室に『ハリー・ポッターと賢者の石』が入ってきたんです。図書室の他の本は、年季が入っている本が多かったのですが、その新刊だけがピカピカと輝いていました。子ども向けとは思えない厚さでしたが、きれいに引かれて手に取って読んだら、とても面白くて一気に引き込まれました。そこから読書に夢中になりましたね。

高須 麻生地区のご出身ですが、子どもの頃の思い出はありますか。

額賀 当時はとにかく本ばかり読んでい

ました。自分の部屋（和室）に床の間があり、そこに本を置いたら、本の重みで床の間が抜けてしまったこともありまして。10代の頃は、学校へ行き、部活をやつて、学校の昼休みや休み時間、帰って宿題をやつた後には、いつも本を読んでいた。月に1・2回、祖父母に車で隣の書店へ連れて行ってもらい、1時間以上かけて本を選び、1カ月かけて読んで、というのを毎月やっていましたね。

高須 行方市を離れてみて感じる魅力はありますか。

額賀 実家に帰つてくると「何もないね」みたいな感じになってしまうこともあります。しかし、小説を書いて改めて良さに気づくことが結構多いですね。客観的に故郷を描こうとすると、魅力を再発見することが多くあります。視点を変えて見ること、何もないことが大きな長所だと気づかされましたね。

高須 市民や子どもたちにも、先生の作品を通じて、そうした故郷の良さに気づいてもらいたいですね。

多くの人に手に取ってもらえるように

高須 今、手元に作品がいくつもあります。例えば『タスキメシ』（小学館刊）や『転職の魔王様』など、作品ごとに非常に魅力的な表紙デザインですね。装丁はどのように決まっていますか。

額賀 表紙デザインに関しては、信頼する編集者やデザイナーさんに基本的にお任せしています。私は物語の中身を作るプロであり、装丁を作るプロはデザイナーだからです。まだ本を読んでいない読者が「面白そう」と、手に取るきっかけを作るのが表紙です。デザインのプロが、こういう表紙がいいと判断して出しているものだもの信じています。おかげで、

いつも素晴らしいデザインの表紙に仕上がっているなと思っています。高須 表紙はまさに本の「顔」で、手に取っていたく重要な要素ですよ。先生の作品は、中身の素晴らしいはもちろんですが、装丁もバラエティーに富んでいて、どれもすごくいいですね。



新刊は茨城が舞台の作品

高須 行方市では、シタイプロモーションやフィルムコミッション（映像作品のロケ誘致）をはじめ、さまざまな取り組みに力を入れています。9月18日（金）発売の新刊『聖地を作れ』（アース・スターエンターテインメント刊）は、行方市が取り組んでいるフィルムコミッションが題材になっているとお伺いしました。本作についてお聞かせいただけますか。

額賀 刷り上がった本が、本日はあいにく手元にならないのですが、タイトルにある「聖地」とは、映画やドラマのロケ地や舞台となった場所のことで、ファンの方々が「聖地巡礼」として観光に訪れる場所を指しています。

本作は、フィルムコミッションのスタッフが、自分たちの地元の一つでも多くの「聖地」を作ろうと奮闘する主人公を描いた小説です。主人公は、茨城県庁に入庁した20代の新人女性で、彼女は国家公務員（官僚）を目指していたのですが、茨城県庁に入庁することになり「ここから成り上がってやる」と意気込んでいたところ、配属先がフィルムコミッション担当だった……というところから物語が始まります。実は、第一話から、行方市が登場するんですよ。

高須 作品中に行方市が描かれているんですね。ありがとうございます。

額賀 作中では、架空の名称になっていますが、行方市の方が読めば「どう見ても行方市だ」と、すぐに分かる名前が出てきます。

きっかけは行方市で行われた『転職の魔王様』のドラマのロケ

高須 この作品を書くかと思われたきっかけは、何だったのでしょうか。

額賀 執筆にあたっては、行方市フィルムコミッションの担当の方に、実際の苦

労ややりがいなど、詳しくお話を伺い、物語を構築していききました。

私が、最初にフィルムコミッションに興味を持ったきっかけは、2023年に私の小説『転職の魔王様』がドラマ化された際のことでした。作品の中で一話だけ病院のシーンがあり、その撮影が行方市で行われたんです。スタッフさんから「病院のシーンは、行方市で撮影します」と聞き、「私の地元です」とお話しした縁もあって、撮影の現場を見学させていただきました。その際、市のフィルムコミッション担当の方が、ロケのサポートをされていました。映像制作会社などにPRしてロケを誘致していると伺い、とても面白い仕事だなと感じました。

ロケが行われれば、大勢の方が食事や宿泊をすることで地域に経済効果が生まれます。さらに、作品のエンドロールには「撮影協力…行方市」と出ますよね。一つ一つが地域に還元されていく仕事だと知り、「これは小説の題材になる」とその時に思いました。それが巡り巡って『聖地を作れ』という作品になりました。ちなみに、きっかけとなった行方市の病院は、作中にもたくさん出てきます。

まちの魅力を届けるために頑張っている人を描きたい

高須 このタイトルには、どのような思いが込められているのでしょうか。

額賀 少し寂しい話ですが、茨城県は都道府県魅力度ランキングで、最下位の常連ですよ。しかし、そうした中でも、市や県の職員の方たちは、自分たちのまちの魅力を外に届けようと、本当に熱心に頑張っている方がいます。だからこそ、魅力度ランキングが低い県であっても、ファンが喜ぶような「聖地」を作ろうと奮闘する人たちの物語を描きたいと思い、このタイトルにしました。



高須 地元への深い思いが込められたタイトルなのですね。

額賀 そうですね。茨城県や行方市は、デビュー以来、結構書いてきた題材です。ので、久々にしっかり書いてみようと思いました。地元の方が読んだときに「あそこだ」「茨城あるあるだ」と笑ってもらえたり、「茨城って意外とロケ地として使われているんだな」と、地域の魅力に気づいてもらえるきっかけになればうれしいですね。

自身の作品初の実写映画化

高須 今度、作品が映画化されるとお聞きしました。実は、私もその作品を今読んでいます。

額賀 ありがとうございます。『沖晴くんの涙を殺して』という作品が、10月2日（金）から全国上映されることになりました。私にとって、自分の作品の映画化は今回が初めてです。舞台は広島瀬戸内海を臨むまちで、元音楽教師の女性と不思議な男子高校生が出会う物語です。病気を抱えた主人公と彼が、少しずつ心を通わせていく物語になっています。

高須 広島が舞台なのですね。もし今後、行方市を舞台に作品を書くとしたら、どんな題材が良いと考えていますか。

額賀 『聖地を作れ』の続編として、行方市でロケ地を探すといった物語で、また行方市を登場させられたら良いですね。担当編集者とも話しているのですが、いつか『聖地を作れ』が映像化されて、行方市や茨城県の各地で実際にロケが行われたらすごいなと思っています。

高須 ぜひ映像化していただき、市としても全面的に協力したいですね。映像化されることで、いろいろな方に知っていただくきっかけになりますよね。

額賀 本ただけだと届かなかった方に届く



という意味では、映像化されることはすごくありがたいことです。『転職の魔王様』がドラマ化されたことで、ドラマを見た後で、本を読んでもくださった方も多くなりました。また、行方市でロケをした実際のシーンが流れた時は、地元の知り合いからもとても反響があって、盛り上がりましたね。

高須 ご自身の書いた作品が映像になる際、イメージとずれたりすることに戸惑いなどはありますか。

額賀 人によって捉え方はさまざまだと思いますが、私はむしろ映像ならではの面白さのために、どんどん変更していただく方がいいと思うタイプです。『転職の魔王様』の際も「映像として面白くなるなら、遠慮なく変えてください」とお伝えしました。別のクリエイターの視点や演出が加わることで、自分だけでは行けなかったところに、作品を連れて行ってくれている感じがして、私は変わって面白くなるのはとてもいいと思っています。

大学で教える経験も執筆活動に生かして

高須 現在、大学で教壇に立たれていますね。学生さんたちにどのような話をし、どのような思いで教壇に立たれているのですか。

額賀 大学では、小説や文章の書き方を教えています。自分が上の世代から教わったことを、下の世代へ還元してあげたいという思いで授業をしています。また、若い世代である学生と関わることは、自分自身の執筆活動にとっても大きなプラスになっています。現代の若者が何に悩み、何に関心を持っているのかを直接会話する中で実感できるからです。

自分が経験した高校や大学での生活とは、少しずついくんだらうなという感覚があるので、話をしながら今の感覚に合わせていく感じですね。そして、今の大学生を作品の中で書く際に、どう書けばいいか参考にしています。

これからの目標

高須 それでは最後に、今後の目標を教えてください。

額賀 目標としては、一冊でも多く、読者の皆さんに「面白い！」と思っていただける小説を書くことです。その中で、行方市を舞台にした作品やその作品の映像化など、地元の方に喜んでもらえるような作品が書けたらすごいなと思っています。

高須 市民の皆さんへメッセージをお願いします。

額賀 とにかくお体に気をつけて、毎日元気に過ごしていただきたいです。

高須 本日はお忙しい中、長い時間本当にありがとうございます。今後のますますのご活躍を心より応援しています。

額賀 ありがとうございます。



対談の様子は、なめテレビで放送します。また、なめテレビオンデマンドでも配信する予定です。

額賀零さんからのメッセージ

メッセージ



行方市の子どもたちへ

本を読むこと、目で活字を追うことは、文章を自分で読み解いて、場面など頭の中で想像することの繰り返しです。頭の中でクリエイティブなことをする、この作業がすごくいいと思っています。世の中には、楽しい小説や物語がたくさんありますので、たくさん本を読んで、楽しんでほしいと思います。そして、本だけに限らず、自分の「面白い」「楽しい」と思えるものに熱中してほしいと思います。

『電子図書館』は「読書の入り口」

図書館が近くになく、図書館に行っても本を読むことができない人もいます。私もその一人でした。どのような形であれ、本に触れる機会が増えるのはいいことだと思います。本を作るプロとしては、紙で読んでもらえたらうれしいという思いはもちろんありますが、何よりも「作品の本身」に触れてもらうことが一番です。私自身、すでに電子図書館サービスに作品を提供していますが、電子で読んで「面白かったから手元に置きたい」と、紙の本を買うケースも非常に多いです。電子図書館は、紙の本へつながる非常に良い「読書の入口」になると思います。



9月18日(金) 発売の新作小説！

『聖地を作れ』

イラスト：海島千本 出版：アース・スター文庫

映画やドラマ、アニメの「聖地」を我が県に！

エリート官僚を目指していた速水律子。しかし面接試験に落ちてしまい、巡り巡って辿り着いたのは子供時代に少しだけ住んでいた茨城県の県庁だった。しかも配属先は発足したばかりの窓際部署、ロケーション連絡室。映像制作者たちの「こんなロケ地がほしい」という希望(時に無理難題)を叶えるため、なんでもOKしてしまうお人好し上司・結束和平と共に奔走することになる。

魅力度ランキング最下位常連県に、1つでも多くの「聖地」を作るために。



▲詳細はこちらから



著者コメント

何もないということは、何にでもなれる可能性がある

今回の新刊『聖地を作れ』は、茨城県庁のフィルムコミッションを舞台に、地元で1つでも多くの“ロケ地＝聖地”を作ろうと奮闘するお仕事小説です。執筆のきっかけは、以前私の作品が行方市でドラマ撮影された際、ロケ誘致に携わるフィルムコミッションの方々のお話を伺ったことでした。茨城は魅力度ランキングの印象を持たれがちですが、映像の視点で見ると「**何もない田舎**」は「**どんな風景にもなれる無限の可能性**」を秘めています。地元の方なら思わずクスッと笑ってしまうような“茨城あるある”や行方市の風景も盛り込みました。地域の底力と魅力を再発見するきっかけとして、楽しんでいただけたらうれしいです。

読者プレゼント

応募の締め切りは10月23日(金) (消印有効)！

額賀滯さんの新刊小説『聖地を作れ』著者サイン入り本を、抽選で10名様にプレゼントします。応募方法は、以下のとおりです。

- はがきの方 郵便番号・住所・氏名・年齢を明記の上、郵送
- QRコードの方 右のQRコードを読み取り、必要事項を入力
市報に関する感想や、額賀滯さんへの応援メッセージなども添えてご応募ください。
当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。
- ▶ 応募締切 10月23日(金) (消印有効)
- ▶ 応募先 〒311-3892 行方市麻生1561-9 市報行方10月号懸賞係宛て



▲応募フォームはこちらから



10月1日(木) スタート！



行方市電子図書館は、図書館利用カード(麻生・北浦公民館図書室利用カード)をお持ちの方なら、どなたでもご利用できます。

図書館利用カードをお持ちでない方 行方市立図書館または麻生公民館図書室・北浦公民館図書室の窓口で、発行手続きを行ってください。



2026年10月1日(木) 9:00 開始！

ご利用方法
図書館利用カードが必要です。カードをお持ちでない方は、行方市立図書館、麻生公民館図書室及び北浦公民館図書室の窓口で利用申請をお願いします。
※本人確認書類もご持参ください。(運転免許証、マイナンバーカード、保険証等)

同時に、何人かアクセスしても読書できる、読み放題タイトルを数多く導入します！

閲覧可能冊数約13,000冊
一般図書 各館・各専書室で同時に閲覧
児童学童向け 約300冊 児童書や図画書に限定
雑誌 約300誌 最新号はもともとバックナンバーも掲載

お問い合わせ
行方市立図書館 電話：0299-55-1495
〒311-3511 行方市玉造2-1175

①アクセス

お手持ちのパソコン・スマートフォン・タブレットから、行方市立図書館のホームページにアクセスし、「行方市電子図書館」をクリック

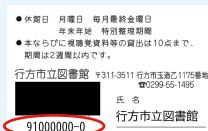


▲QRコードはこちらから

②ログイン

図書カード裏面に記載の利用者ID(赤丸部分)とパスワードを入力
※パスワードが不明な方は、図書館へお問合せください

図書館利用カード(見本)



③本を探す・読む

歴史・文学などのジャンル、フリーワード、新着、読み放題などさまざまな方法で読みたい本を検索。目当ての本が見つかったら、「借りる」ボタンをクリック
※読み放題資料などの一部資料は「読む」ボタンとなっています。



④本の利用

同時に借りることができる本は、2冊までです。読み終わった本は、返却ボタンを押すことで返却
※貸出期間は2週間です。
※期限になると自動で返却されますので、返却忘れとなることはありません。

